

## 小浜島の昔話を CD-R にする

島嶼文化教育コース 2年次 金城真理子

### ◆完成形 (CD-R)

それぞれの昔話の内容に合った絵を作り標準語の字幕を付け、地元の方言で語りを入れる。各話ごとに関連のある、聞き取った話と方言の訳を文面で紹介していく。

### ◆収録話

#### 1. 大岳の始まり (伝説)・・・未収録

小浜島のある場所から海に土を運んでいる途中にその土を落とした。そのときの土が現在の大岳となっている、という話。

☆大岳・・・タケノチンス、ウフダキ ☆そのー・・・ンガー

☆折れる・・・ブリ

◦もともとの地元の方言では「タケノチンス」であったが「ウフダキ」に変わり現在では観光客にもわかりやすいように「オオタケ」と地元の人も呼んでいる。

◦戦前の大岳は松の木がきれいに植えられていて、松の葉が落ち、自然のじゅうたんとなり地元の人たちもよく訪れていたが、沖縄戦で日本海軍が壕を作るためにこの松の木を切り倒し、その後再び松の種類の木を植えたがうまくいかず現在では雑林となっている。

#### 2. 「小浜」という名の由来・・・収録済

西表島の古見集落からの移住からこの島は始まった。

☆古見・・・クン ☆始め・・・ハンチメ

◦小浜島での最初の集落は大岳の北側にあり「クヤー」と呼ばれていた。しかし津波の被害に遭い、島の真ん中、現在の位置に移動してきた。斜面を削り平らにしてそれぞれ家を建てた。

#### 3. 牛を追った徳 (伝説)・・・収録済

畑の麦を食べていた牛を追ひ払ったら寿命が延びたという話。

☆牛・・・ウス ☆麦・・・ムイ ☆食べていた・・・ファイル

☆お前・・・ウワー ☆自分・・・ナーラ ☆命・・・イナツ

☆神様・・・カンプトウキ ☆長寿・・・チョウミ

◦現在ではほとんど残っていないが小浜島では麦や稲を栽培し、塩も作っていた。塩を作る時は一晩中寝ずに海岸で過ごした。また各家庭で豆なども栽培し、それからミソも作っていたが今では店から買っている。

#### 4. 牛の恩返し（伝説）・・・収録済

牛を大切に育てていた使用人が金持ちになったという話。

☆下男（使用人）・・・ウンチョーマ ☆金持ち・・・ジンムツァー

☆干してある・・・クッチェール ☆叱る・・・イチ ☆殺して・・・クライ

☆腹・・・バタ

◦最近までは牛、山羊といった家畜はひもなどでつながれていた。そのひもがよく家畜にからみついていた。それをほどこいてやると神様から長寿を授かるという話があった。現在は商売目的であるため数が増え手間がかかるため、放牧をしている。

#### 5. 片手の教え・・・未収録

「貯蓄の重要性」を断崖の松の枝にぶら下がり片手を放した時、落ちまいと必死に枝を掴まえている、もう一方の片手の重要性に例えて教えようとする話。

#### ◆方言の現状

今の子どもたちの日常生活ではほとんど耳にしない。大人たちは話すことはできるが子ども世代と話す時は標準語のため、日常的には方言の伝承はなされていない。そんな中、地域活動として小・中学生方言大会が年に一度小浜公民館で PTA 主催で開催される。作文を作り、その文章を方言の話せる世代に方言に直してもらい、方言でその作文を読むのである。この活動は地元の文化を学ぶと共に世代間の文化交流を図ることにつながっている。

#### ◆調査に御協力していただいた方々に深くお礼申し上げます。